

令和5年度
「学生生活にかかる喫緊の課題に関するセミナー」

多様な性を生きる学生の 理解と支援

葛西真記子
鳴門教育大学 心理臨床コース
SAG徳島 代表

なぜ性の多様性を理解する必要があるのか

大学がSafe Zoneになるために！

多様な性

Lesbian	レズビアン
Gay	ゲイ
Bisexual	バイセクシュアル
Transgender	トランスジェンダー
Xgender	エックスジェンダー
Asexual	アセクシャル
Demisexual	デミセクシュアル

LGBTs

LGBTQ+

SOGI
SOGIE

名前を知ることのプラスとマイナス



セクシュアルマイノリティ/性的少数者 /LGBTQ+とは...?

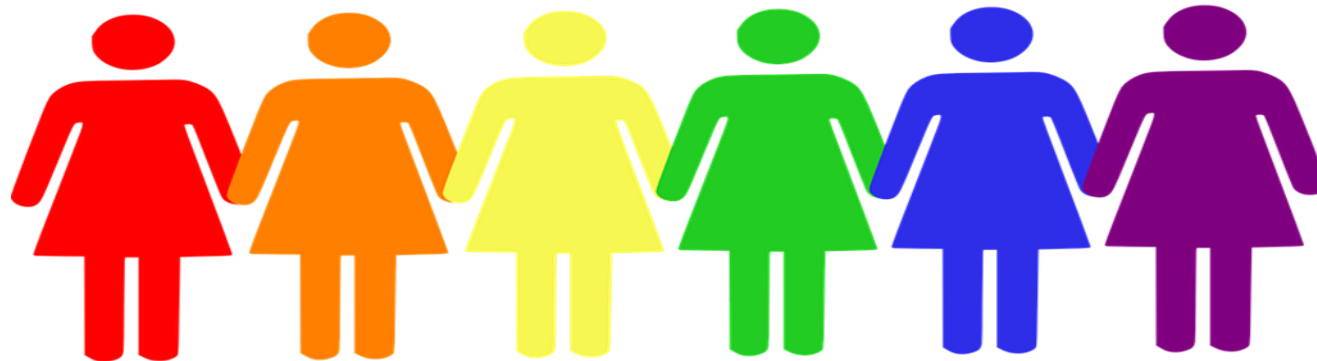
＜性的多数派＞（セクシュアルマジョリティ）

=「自分の性別に違和感がない」かつ

「異性を好きになる」

＜性的少数者＞（セクシュアルマイノリティ）

= 上記の多数派ではない人々の総称



セクシュアルマイノリティ/性的少数者の方はどのくらいいる…？

- 世界の調査では、人口の約5～10%
(20人に一人か、10人に一人)
- 2015年のインターネット調査では、7.6%
(電通ダイバーシティ, 2015)
- 2018年のインターネット調査では、8.9%
- 2019年のインターネット調査では、10.0% (LGBT総合研究所)
- 2023年のインターネット調査では、9.7% (電通、2023)



LGBTQ調査 2023 電通 57,500 人の9.7%

性自認について

- トランスジェンダー 1.15%
- ノンバイナリー/Xジェンダー 1.38%
- クエスチョニング 0.26%

2.79%

性的指向について

- ゲイ 1.59%
- レズビアン 1.01%
- バイ/パンセクシュアル 3.20%
- アロマンティック 1.43%
- セクシュアル 1.56%
- クエスチョニング 0.58%

9.37%

どう聞くかによって
回答は
変わってくる
線引きは難しい

GenderとSexuality

Gender ジェンダー

- + 生物学的性・身体的性（性染色体、性腺、内性器、外性器、性ホルモン、etc）
- + =セックス
- + 性自認
- + 自分の性別についての自己認識(ジェンダーアイデンティティ)
- + 指定されたジェンダー（出生届、戸籍）
- + 性役割 = ジェンダー
- + 社会的、文化的に作られたもの
- + 男女の役割や規範

Sexuality セクシュアリティ

- + どんな風に他者に身体的・感情的に魅力を感じるか
- + 誰に向かうかは関係ない（多い、少ない、ないもある）
- + =セクシュアル・オリエンテーション
- 欲求（身体的・感情的に魅力を感じるか）
- 行動（性的な行動など）
- アイデンティティ（Gay、Lesbian、Bisexual、Heterosexual、Asexual、Pansexualなどなど）

性的指向に関するこれまでの捉えられ方（アメリカ）

同性愛・両性愛を精神医学的な障害であると考えてきた

心理療法家の間でも同性愛は、「病理」であり、「治癒」対象であった

同性愛者 = 「病的性欲をともなった精神病質人格」

1952年 DSM-I（精神障害の診断と統計マニュアル：Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders）

1968年 DSM-II

1974年 DSM-II（第7版）APA（アメリカ精神医学会）に対する同性愛権利活動家の明確な抗議が、サンフランシスコで大会が開かれた、1970年に始まった。改訂版の作成に同意（同性愛を精神疾患分類から削除）「性的指向障害」

1980年 DSM-III 「自我異和的同性愛」自分の性的指向で悩み、それを変えたいという持続的な願望を持つ場合に下される診断名。同性愛であることを肯定的に受け止めている場合には、この診断名はつかない。

1987年 DSM-III-R 「自我異和的同性愛」も削除

1990年 ICD（世界保健機関が出版する疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases）から削除

1994年 DSM-IV 精神疾患リストから同性愛は完全に消えた

2000年 DSM-IV-TR

2013年 DSM-5



性自認に関するこれまでの捉えられ方（アメリカ）

1980年 DSM-IIIにおいて「性同一性障害」という診断名が採択

1987年 DSM-III-Rにおいて批判

男児と女児とで異なった基準になっていること、

自分の性別への嫌悪感と他の性別への同一化が一つの基準になっていること、

他の性別へ移行したいことを表明していることが診断の基準になっていること

1990年 DSM-IV

必ずしももう一方の性別への移行希望を表明しなくてもよい

性別役割への嫌悪感も生物学的性別への嫌悪感も同じ基準に含められた また批判（異性装も診断つく！？）

2013年 DSM-5において性同一性障害という疾患名から、性別違和（GD）に修正

性別違和感を持つこと自体は精神障害ではなく、それによって精神的苦痛を感じるかどうかに焦点

GDは、「その人により経験または表出されるジェンダーと、指定されたジェンダーとの間の不一致に伴う苦痛」を意

身体的性(sex)ではなく、指定された性別(assigned gender)を使用

性指向に関する下位分類を削除

年齢層によって異なった形で現れるので、「子どものGD」と「青年および成人のGD」には別々の診断基準

政府・文科省・厚生労働省での性的少数者

- 2000年3月「人権教育・啓発に関する基本計画」の中の取り組むべき人権課題の一つとして閣議決定 法務省・文部科学省の発行した人権教育・啓発白書にも含まれた
- 2004年 性同一性障害特例法
- 2010年 「児童生徒が抱える問題に対しての教育相談の徹底について」を発出し、性同一性障害に係る児童生徒については、その心情等に十分配慮した対応を要請した。
- 各県教育委員会にも人権教育として取り組んできた（しかし、性同一性障害（性別違和）が中心）
- 2014年 文部科学省の「性同一性障害に係る対応に関する状況調査により」全国から606人の報告
- 2015年 性同一性障害に係る児童生徒だけでなく、いわゆる「性的マイノリティ」とされる児童生徒全般に共通するものであることを明らかにした。
- 2016年 「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応等の実施について（教職員向け）」
- 2017年 いじめ防止対策推進法 性的指向・性自認に関する記載
- 2017年 厚生労働省の「自殺総合対策大綱」 性的マイノリティが記載
- 2018年 日本学生支援機構「大学等における性的指向・性自認の多様な在り方の理解増進に向けて」 作成
- 2022年 生徒指導提要 改訂版「第12章 性に関する課題」 性的マイノリティ

性的少数者への対応 文部科学省から通知

平成28年4月1日 性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細やかな対応等の実施について（教職員向け）パンフレット作製・配布

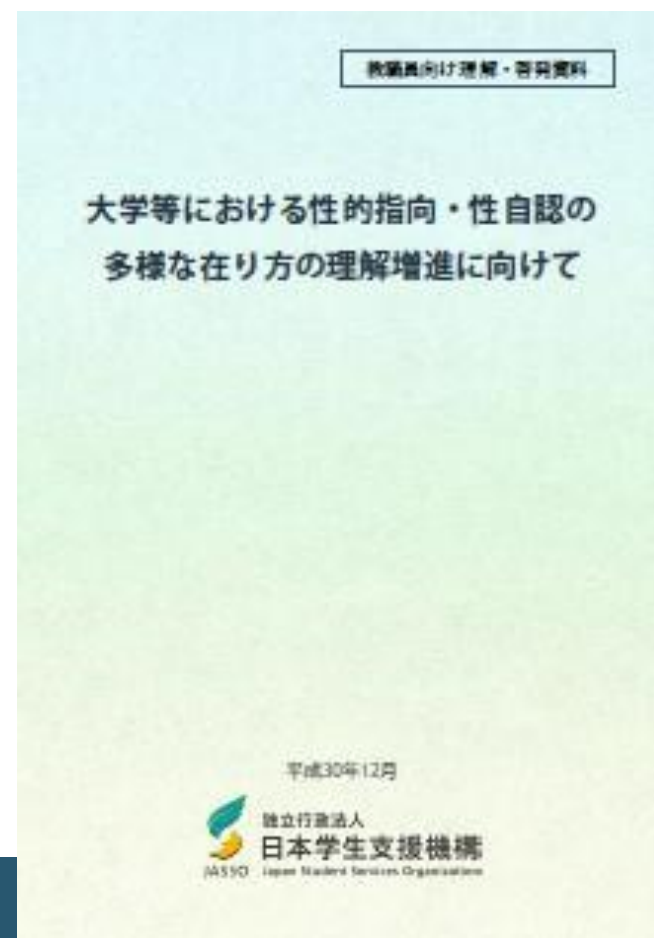


各都道府県でも作成

大学等における性的指向・性自認の多様な在り方の理解増進に向けて 日本学生支援機構

平成30年 12月

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）では、大学等の教職員を対象として、性的指向・性自認の多様な在り方に関する理解の増進を図ることを目的とした資料「大学等における性的指向・性自認の多様な在り方の理解増進に向けて」を、文部科学省や専門の有識者の協力を得て作成



大学内のLGBTQ+



なぜ大学でセクシュアル・マイノリティへの対応が必要なのか？

セクシュアリティやジェンダーは人権問題であるという意識を身に着ける

学生にとって専門知識を身に着けるだけでなく、社会とつながり、就職に向けて、将来について考える重要な場である

当事者の学生にとっては、様々なハラスメントに遭遇する可能性がある

メンタルヘルスの悪化、成績低下、中退、就職困難、金銭トラブル、恋愛・友人関係のトラブル

鳴門教育大学の場合は、教員になる学生にとっては、これから対応する児童生徒の理解のために必要である

大学内でセクシュアリティ・ジェンダーアイデンティティ
に関して不都合を感じたことがありましたか。

授業・教授（シスジェンダー・ヘテロセクシュアルのみを前提）

学生間（からかい、笑いの対象、嫌悪）

施設（トイレ等の施設整備）

セクシュアル・マイノリティではない学生（性役割の押し付け）

その他

LGBTQ+の学生にとって安全な学習環境

Learning and Instruction, 2024, 90. Poteat, P., et. Al.

- 14歳から19歳のLGBTQ+の学生への調査
- 海外にはGender-Sexuality Alliances (GSAs) clubsがある中・高・大学が多い
- GSAsは多様な性的指向・性自認の学生を認める団体
- GSAsに積極的に参加した学生は、教員の対応の良さを感じたり、仲間と交流したり、学業上の問題について話し合ったりしたミーティングの翌日には、不満が少なかった。
- より多くのリーダーシップを発揮したミーティングの翌日には、学校や学習への相対的にエンゲージメントが高まった。

トランスジェンダーの学生にとって、希望の名前が多くの場合で使われることでうつ
的傾向、自殺念慮、自殺企図が減少
Russell, S. et. al., 2018

健康問題

小中高校時代

- いじめ
- からかい
- 不登校
- 自傷
- 自殺念慮
- 自殺企図



いじめ等不快な体験

84%の児童生徒がLGBTについて不快な冗談を言っているのを見聞きした経験

68%の児童生徒がいじめや暴力を経験

(いのちリスペクト。ホワイトリボンキャンペーン, 2013)

学校で性的指向及び性自認に基づく暴言を経験した子どもは8割以上

その3割は教員からの暴言、周囲の教員の6割が暴言に対して無反応・無対応

(ヒューマン・ライツ・ウォッチ、2015)

性的少数者の約6割が小中高の学校生活でいじめられた経験があり (日高, 2019)

学校生活でいじめを受けたと答えたのは10代で47・4%、40代で65・8%。

8割が不快な体験をしたと報告 (埼玉県、2021)



10代のLGBTQ+の方々の自殺念慮 2022年9月インターネット調査 ReBit

- + 10代LGBTQは過去1年に、48.1%が自殺念慮、14.0%が自殺未遂、38.1%が自傷行為を経験したと回答。
- + 日本財団の『日本財団第4回自殺意識調査（2021）』と比較し、10代LGBTQの自殺念慮は3.8倍高く、自殺未遂経験は4.1倍高い状況にある。

孤独・孤立 ReBit, 2022

- + 孤独感が「しばしばある・常にある」と回答した10代LGBTQは29.4%、20代LGBTQは27.2%、30代LGBTQは25.8%。
- + 内閣府の『孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（2022）』と比較すると、孤独感が「しばしばある・常にある」の回答が、10代LGBTQは8.6倍高い状況です。

性別違和感のある人が自殺を考える理由 (針間, 2013)

1. いじめ
2. 孤立感
3. 身体的違和感



ピークは
1. 中学生
2. 社会に出る前

多様な性を生きる人々は心理的苦痛等のハイリスク群である可能性が高い

- 悩んでいる当事者の方が多い（今は悩んでない、幸せという人もいる）
- 誰にも相談できない人は多い
- 孤立、自信のなさにつながることもある
- 抑うつ、不安神経症など精神疾患につながることもある



性的指向
セクシュアリティ

児童期

1. 気づき始めるのは、小学校6年生前後が最も多い
2. 異性愛主義的な学校・社会
3. 同性愛差別、偏見、スティグマがある
4. 保護者への情報も必要（嗜好・選択だと思っている保護者も多い）

人に言ってはいけないこと！

自分はおかしいのか！？

思春期

- ぼんやりとしていた同性愛への気持ちがあっさりしたものになる
同時に
- これは誰にも知られてはいけない！と思う
- ばれないように異性愛者を装ったり、人から距離をとったりする



自信がない、自尊心が低い、学業に身が入らない、休みがち
いじめやからかいの被害
不登校
自殺念慮

性的指向のゆらぎ (Sexual Fluidity)

- + 疑問 1 「性的指向は変わることがあるのか」
- + 疑問 2 「性的指向は生得的なものなのか、後天的なものなのか」

性的指向は誰かが外から変えることはできないが、
本人の性的指向が変わることもある
Diamond, 2008, 2012, 2014

性的指向は生得的なもので変わらないという研究結果もある

大学生時期のLGBクライアント特有のテーマ

- カミング・アウト、親密性
- 異性愛役割葛藤
- HIV・AIDS等
- コミュニティ
- パートナーシップ制度に関すること
- 性的同一性の発達過程(ロールモデルのなさ)
- 内面化された同性愛嫌悪
- 社会的同性愛嫌悪と同性愛差別主義

異性愛役割葛藤 (日高, 2000)

カミングアウトしていない同性愛者が、社会における差別や偏見を恐れ、日常生活において、自らのセクシュアリティが周囲に察せられないように、異性愛者を装う

例 ゲイ・バイセクシュアル男性の場合

- ①彼女いないのと聞かれて適当に話を合わせるとき
- ②ホモねたで周りに合わせているとき
- ③彼のことを彼女に置き換えて話しているとき
- ④ゲイの交友関係のことを気軽に話せないとき
- ⑤彼氏とおしゃれなレストランへ行き、周囲の目を気にするとき
- ⑥女の子に囲まれて「両手に花だね」と言われたとき
- ⑦女性が接待しているお店に「つきあい」で行くとき

うつ、不安、孤独感、
低い自尊感情と
関連あり

大学内の対応として重要なこと

- ①日々においては、大学全体の異性愛主義的価値観の見直しに取り組む
- ②自分自身の価値観や、同性愛嫌悪的や異性愛主義的な発言・考え方をしていないかチェックする
- ③学内のポスターや書籍、資料等、異性愛が当たり前である、それ以外は存在しないという想定になっていないかチェックする
- ④地域にある利用できる資料、資源について調べておく
- ⑤様々な相談等において、相談内容が性的指向に関するものでなくても、多様な性の学生、保護者がいるということを常に考えておく
- ⑥管理職に働きかけ、大学でどのような変更・改革が可能か提案し、取り組む
- ⑦大学での講演や研修を積極的に行う



性自認 ジェンダー

知っておくべきこと

1. 自身の性別について認識し始めるのは、3, 4歳
2. 自身の性別違和感について自覚し始めるのは、小学校入学前が57%、小学校低学年が13% (中塚、2010)
3. 子どもの頃の性別違和感を成長しても持ち続ける者と、持ち続けない者の違いは何か (性別違和感のある児童、性別にとらわれない児童)
4. 性別違和感を示していた児童の70%から80%は、後に違和感が消失し、同性愛や異性愛になるという考えが幼児の発達段階に由来する (Goswami, et al, 2011)

第二性徴が大きなカギ

最近はカミングアウトの年齢が
下がってきた

思春期

- 第二性徴によって性別の違和感をますます体験するようになる
- 更衣をする行事は参加しない（体育、身体測定、運動の部活など）
- 身体女性の場合は、毎月の生理時に精神的苦痛が大きい
- 身体男性の場合は、身体の変化を気にして摂食障害になることもある

いじめ、からかい、不登校、引きこもり等
自殺念慮・自傷行為

性別違和（性同一性障害）

- + 1997年 日本精神神経学会が正式な医療行為と認め、治療のガイドラインを発表
- + 1998年 埼玉医科大学で日本で初めての性別適合手術
- + **2004年 性同一性障害特例法**
戸籍の変更ができるようになった
性同一性障害に対する医療が是認された
- + 2006年 性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン(第3版)
- + 2012年 性同一性障害に関する診断と治療のガイドライン(第4版)
- + 2018年 厚生労働省が性別適合手術を保険適用 しかし・・・
- + 2023年 性同一性障害特例法の手術要件は憲法違反 最高裁による

学校現場での対応として（葛西、2019）

- + 望む性での施設利用（トイレの使用やその方法、宿泊を伴う行事の対応）
- + 健康診断（学校で実施せず校医を受診する、個別の実施時間を案内する）
- + 学外行事の際の配慮（相手先への配慮の依頼を行う）
- + 学生証や卒業証明書に通称名を記載できる制度上の見直し
- + 各種書類における性別欄の見直し（性別の記載の必要性を精査する。必要であれば男女以外の項目を設ける）
- + 授業における呼び名や名簿の配慮

大学生の時期の性別違和感のある学生特有のテーマ

- 治療（医療との連携）
 - 就職（キャリアカウンセリング）
 - カミングアウト（友人、学部、教員、実習先）
 - 親との関係
-
- 性別に対する意識、Gender Identity
 - 何に対する違和感なのか(性別、役割)
 - トランス嫌悪
 - 異性愛主義

支援の場で大切なこと（葛西、2023）

- + 本人への支援、保護者への支援、教員への支援、周りの学生への支援が必要
- + 「性別に違和感がある」という主訴であっても、「トランスジェンダー」だと決めつけない
本人にとっての感覚はどういったものかを丁寧に聞いていく
- + 地域資源の情報を把握しておく
- + 医療現場との連携
- + 施設整備

性別に違和感がある方々が望む性別のありかたは様々

- + 法的な性別変更をしたい人
- + からだの一部の手術だけを希望する人
- + ホルモン療法だけでいい人
- + 性別適合手術を受けても法的な性別変更をしない（望まない）人
- + からだの性別と違う性を自認しながら医療的手法を選択しない人
- + 特定の性別を自認しない人

就活に関すること

+ LGBTフレンドリーを掲げる企業もある

+ 不安点

1. 履歴書・エントリーシートの性別欄、氏名
2. 女子校、男子校、女子大
3. リクルートスーツ？
4. カミングアウトする？
5. 大学時代のサークル活動



現在日本で話題になっていること



パートナーシップ制度

同性婚裁判

性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律



LGBTQ+
の支援について

異性愛主義のLGBQの学生への影響

シスジェンター主義のTXQの学生への影響

社会・大学全体が、異性愛者しかいない、性別に違和感のない人しかいないという多数派中心主義になっている

可視化されていない
無視されている

マイノリティとしてのストレス

マイノリティ・ストレス 理論

(Meyer, 2003 ; 葛西, 2023)

社会的マイノリティの方々は、顕在的、あるいは潜在的特徴によって社会からスティグマを付与され、偏見や差別といった周囲からのネガティブな態度にさらされやすい。

Distal minority stressors
遠距離的マイノリティストレス
セクシュアルマイノリティ当事者から遠いところにある経験的な遭遇であり、対人差別、被害、憎悪犯罪、マイクロアグレッション、その他の日常的な煩わしさ(Meyer, 2003)

に対するスティグマに、T
って生じる偏見や差別
、希死念慮、抑うつを

proximal minority stressors
近接的マイノリティストレス
性的マイノリティの認知的・感情的プロセスを介して内面化されるストレス。内面化されたヘテロセクシズム、内面化されたバイネガティビティ、ストレスやスティグマの予期（結果として生じる不安や心配を含む）、アイデンティティの隠蔽などがある (Meyer, 2015)

Intersectionality (Crenshaw, 1991)

交差性・多層性

Intersectionality（交差性）とは、人種、民族、国籍、ジェンダー、階級、セクシュアリティなど、さまざまな差別の軸が組み合わさり、相互に作用することで独特の抑圧が生じている状況をさす。

つまり、日本に住む外国の方で同性愛者だと、外国の方であること、同性愛者であることだけでなく、その二つが重なることによってさらに別の体験をしている



Microaggression

(Pierce et al., 1997; Sue et al., 2007)

定義「微妙で、しばしば自動的で、意図せず、言語的・非言語的な見下し」

特徴①人によってとらえ方が違う、②意図しないバイアスの見えにくさ、③それほど害がないという思い込み、④反応のしにくさ

誰もが加害者、被害者になりうる
支援者が当事者/非当事者どちらでもありうる

支援者としてアセスメントするとき、目標を設定するとき、面接中の焦点をあてるときに、意図せず、意識せず多数派の性別観、性指向観でみてしまう。
特に笑いの対象としたり、差別的な発言をしていなくても、触れない（いないものとして扱う）これはMicroaggression

Microaggressionの例

- + ジェンダーに対するMicroaggression：あからさまなセクハラ、ヘイトではなく、女性に対して、子ども扱いしたり、ステレオタイプを押し付けたり（臨床における治療像など）、平等な機会が得られないようにしたり（重要な会議を夜に行い、女性は危ないから早く帰った方がいいというなど）。
- + 実習において男か女かを求められたり
- + LGBTQ+に対するMicroaggression
- + 「性的指向・性自認がマイノリティであってもなんら変わりません。誰に対しても共感的に対応できます」という発言。
- + 「基本的には同じですよ」という発言。
- + 「私に加害性はありません」「セクシュアリティも大切だと思うが他にもっと大切なことがある」



大学でできること

大学がLGBTQ+フレンドリーになるために

- ✓ Safe Zone
- ✓ みんなのトイレ（All Gender Restroom）
- ✓ 個別の更衣室
- ✓ 個別の身体測定
- ✓ 差別しないことを明記
- ✓ 寮の対応（共同浴場なのか、個別スペース、パートナー）
- ✓ 教職員のトレーニング
- ✓ 大学全体での啓発、支援
- ✓ 書類の修正

授業では

- ✓ 教員が差別的な言動をとったり、授業のたとえ話でホモネタなどを放置しない
- ✓ 男女に分けた教育内容、固定的なジェンダー規範を見直す
- ✓ アンケート等の性別欄について考える
- ✓ 男女ペアワークについて再考する



大学でできること（具体例）

- 学科のウェブサイト、掲示板、印刷媒体、その他の資料を通じて、学会及び組織の差別禁止方針を、学生、教員、職員に周知する
- 事務室、各学科の廊下、学生会館、図書館、食堂、売店などに、レインボーフラッグや、セーフゾーンのサインなど、目に見えるサインを掲示する
- ハラスメント、いじめ、暴力に関する方針を明確にする。これらの行為は容認されず、完全に調査されることを伝える
- 学生、教職員が差別に遭遇した場合に、懸念や苦情を申し立てるための具体的かつ明確な仕組みがあることを確認する
- 学生、教職員との定期的な会合で、多様な性的指向、性自認について包括的に評価する
- 大学のポリシーなどに多様な性的指向、性自認について含まれていることを確認する

大学でできること（具体例）

- 同性パートナー、様々な家族形態を認め、同様の福利厚生が与えられるべきである
- 医療センターと連携し、必要な医療的ケアを受けられるようにする
- LGBTQ+コミュニティに関連するイベントを主催し、支援する
- 教職員へのトレーニングを定期的に行う
- LGBTQ+の学生や教職員を支援できるカウンセラーを配置する
- 実習、インターンシップ、就活への支援を多様な性的指向、性自認の学生に行う

セクシュアリティ・ジェンダーの問題は**人権問題**である

+ 基本姿勢

- + セクシュアリティ・ジェンダーはその人の在り方である
- + それを嘲笑、からかい、差別、いじめの対象とするのは間違っている！
- + 悲しいことに、これまでの日本や世界の歴史の中で間違った考え、信念があり、LGBTQ+の方々は差別やいじめの対象となってきた

おわりに

+ セクシュアルマイノリティに関連する活動に参加しよう！

+ 徳島県では、SAG徳島など

+ 令和5年11月11日 徳島レインボーパレード

+ 鳴門教育大学の「いじめとLGBTQ+をみんなで考えるシンポジウム」開催予定（12月10日）

元ユネスコでSOGIマイノリティに関する様々なプロジェクトの代表 Christophe Cornu

タイのいじめ研究者 Ruth Sittichai

大阪教育大学 戸田有一

鳴門教育大学 葛西真記子

趣旨 「BVP (Bullying Prevention: いじめ防止支援) プロジェクト」は、いじめ問題に関する特色ある研究を展開している教育実践4大学(宮城教育大学・上越教育大学・鳴門教育大学・福岡教育大学)による協働参加型の事業として、平成27(2015)年度から、各大学で、いじめ防止のための研修会等を実施しています。

この度、UNESCOで「教育現場におけるSOGIと暴力に関するプログラム」のコーディネーターを2011年より2022年まで務めておられたChristophe Cornu氏をお招きし、世界におけるセクシュアルマイノリティの児童生徒へのいじめ・暴力の実態について氏が関わった多くの実践・その成果をもとに講演をしていただくことになりました。また、講演後は、Christophe Cornu氏、タイのPrince of Songkla UniversityのRuthaychonnee Sittichai准教授、大阪教育大学の戸田有一教授、鳴門教育大学の葛西真記子教授とともに「ユネスコの経験とタイの視点からLGBTQ+といじめを議論する」というタイトルでシンポジウムを行います。本シンポジウムは、世界全体やアジア圏でのSOGI Minorityに関する研究・実践について日本国内で関係者から直接話を聞く機会がほとんどと皆無である現在、とても貴重な内容となるでしょう。

2023.
12.10 SUN
13:00-16:30

鳴門教育大学
総合学生支援棟 3階 F会議室

プログラム (会場)

12:30	● ZOOM・会場受付
13:00~13:10	● 開会行事 開会挨拶 / 佐古 秀一 (鳴門教育大学)
13:10~14:30	● 講演会 「ユネスコの経験からみたLGBTQ+といじめ」 Christophe Cornu (元 UNESCO International Program Coordinator)
14:40~16:10	● シンポジウム 「ユネスコの経験とタイの視点からLGBTQ+といじめを議論する」 Christophe Cornu (元 UNESCO International Program Coordinator) Ruthaychonnee Sittichai (Prince of Songkla University 准教授) 戸田 有一 (大阪教育大学 教授) 葛西 真記子 (鳴門教育大学 教授)
16:10~16:20	● 閉会行事 開会挨拶 / 美馬 持仁 (鳴門教育大学理事・副学長)

主催 鳴門教育大学
後援 徳島県教育委員会
徳島新聞社
NHK徳島放送局
四国放送株式会社
日本発達心理学会

参加費 無料



参加人数
会場参加
約50名程度 (先着順)
オンライン参加
約100名程度 (先着順)

対象
教育関係者、
連携大学関係者、
学生、一般等

ユネスコの経験とタイの視点から

日本の学校の未来を見通す

いじめとLGBTQ+を
みんなで考えるシンポジウム



ありがとうございました★

mkasai@naruto-u.ac.jp

